

市民文教常任委員会会議記録（概要）

令和8年3月13日（金）

開 会（午後2時30分）

【議 事】

○所管事務調査「学校教育について」

【質 疑】

石本亮三委員

20人を切るようなクラスと、その昔私たちの40人学級の時代とでは授業の進め方が全く違うと思うが、どのような雰囲気なのか。

中田学校教育
部長

30人くらいでも、十数人でも、グループで話し合うという活動自体はできると思います。違いがあるとしたら、同じことをやっても35人でやるものと十数人でやるものでは回転率といいますか、例えば、体育館で運動するにしても回数が違ってくるかと思います。

ただ、少ないからこじんまりしてしまうというよりは、その学級の様子次第かと思いますが、人数が多いほうがにぎやかという見方もあるかもしれません。

石本亮三委員

学校は勉強以外に集団生活を学ぶ場で、あまりにも1クラスの生徒数が少ないと、グループも2つくらいしかできなくて、集団生活を通して学ぶということでの先生の御苦勞は人知れずすごいと思ったが、どのような声が上がってくるのか、また、人数が少ないとベテランの先生を配

置する等、現場ではどのようにしているか。

中田学校教育
部長

一概にこうだとは言えないと思いますが、人と交わる頻度が心配ということについては、そこに担任として入ったら意識しますが、例えば、学年だけではなく異学年交流もあるので、生活科という学習では1年生を招待して、2年生が発表するのをお客さん役で参加してもらおうとか、そういう人間関係を築いているところもあります。

ただ、少ない人数なりの配慮というか、固定的な人間関係にならないように意識するところかと思います。

石本亮三委員

同じ学校でも学年によってばらつきがあるところも見えたりする。こどもの頃を思い出すと、富岡小学校と中富小学校と西富小学校の対抗戦みたいなものがあつたが、他の学校との交流も、人数が違うとなかなかしづらいかと思うが、今はあまりやっていないのか。

中田学校教育
部長

今でもやっています。基本的には親善という扱いでやっていて、勝ち負けを競いながらの親善もちろんありますが、人数によって差が出るようにはならない競技を、また、あえて交わって一緒に競技をすることで親善を意識した取組がされています。

松本明信委員

クラスの人数が何人以下だと、どこかの学校と統合するという目途が

あるか。

中田学校教育
部長

小学校は1クラスの上限が35人ですが、少ない人数については、1
クラスが何人になったら統合という基準はありません。

松本明信委員

A学校よりもB学校に行きたいという場合に選択はできないのか。

中田学校教育
部長

学区があり、基本的には居住地に基づいて通う学校が決められていま
す。

松本明信委員

部活がないからこちらの中学校に行くという緩和策はあるということ
か。

中田学校教育
部長

指定校変更の基準というものが幾つかございます。

松本明信委員

人数の多い少ないという理由では認められないということか。

中田学校教育
部長

おっしゃるとおりでございます。

矢作いづみ委員

小学校は35人学級ということで、30人以下が4割くらいかと思うが、中学校は35人以下が半分くらいかと思ったが、中学校は1クラス何人というのはあるか。

吉川学校教育部次長

中学校は上限が40人です。

矢作いづみ委員

1年生も40人か。

吉川学校教育部次長

40人です。来年度から1学年ずつ35人に移行していきます。

矢作いづみ委員

クラスが増えるということだと思うが、来年度はどのくらい増える見込みか。

吉川学校教育部次長

今現在動いているところではっきり幾つとは言えませんが、おっしゃるとおり、35人学級になることにより増えるところはございます。

神戸鉄郎委員

来年度から中学校も35人になるというのは国の方針でほぼ決まっていると思うが、それによって臨時の先生の採用の現状について伺いたい。

吉川学校教育
部次長

委員がおっしゃるとおりで、臨任の方を、特に保留学級とって、数がどうなるかというところに関して本採用の方を充ててしまうと、学級減で急に仕事がなくなることがございますので、そこに臨任の方を配置したり、例年より多いかもしれませんが、例年より臨任の方もいるため、そのような形で対応しているところです。

石本亮三委員

例えば、著しく人数が少ない学校の保護者から意見があった場合、失礼だが教育委員会まで上がるのか。例えば、大ごとではないから学校で止まる等、教育委員会に上がらないということがあるか。

中田学校教育
部長

学級の人数の多い少ないで御意見をいただくというのは、私の知る限りではありません。学級がうまくいくかどうかは問題なのであって、人数によってどうこうという御意見はいただいていないかと思います。

矢作いづみ委
員

月別の80時間超えの教員数が出ているが、4、5、6月や9、10、11月、年度末あたりで80時間超えの先生が増えている。新学期、行事、年度末というところに集中するという理解でよろしいか。

中田学校教育
部長

参考にお示ししたのは、時期によって違いがあるということをお伝えできればと思うのと、同じ人物が全ての月で多いということではなく、

例えば、中学校では受験の時期になれば、当然受験を担当している先生は時間が増えるかと思います。時期によるのかという御質疑であれば、そのとおりであって、担当者によってもまた違うと言えると思います。

吉川学校教育
部次長

中学校は特に、日没に合わせての下校時刻になりますので、4月から7月は部活動の関係で下校時刻が遅くなっています。例えば、18時が下校時刻というところで多くなっているのが一つ要因としてございます。もちろん事務的な量も年度当初で多いというところもあります。

9月、10月についてはだいぶ減りましたが、体育祭や合唱コンクールの時期で、行事が重なっていて中学校ではその月に集中しています。

石本亮三委員

給特法が導入されたとき、当時の文部省が昭和40年代に調べたときは教員の残業時間が8時間程度であった。ところが3年くらい前だったか、文科省が調べたら45時間という数字が出てきて実態に合わないという話をNHKで報道していたが、給特法で4%の手当が出るため、残業時間はしっかりと把握しているのか。

中田学校教育
部長

パソコンで出退勤記録をつけていて、詳細が把握できるようになっております。

石本亮三委員

給特法ができたときの残業時間は8時間で、今は5倍になっているか

ら極端な話20%上乘せしても理論上はよいが、こういう現状から若い先生が辞めてしまうということをワイドショーやニュースで聞くが、所沢市においてはどのようになっているか。

中田学校教育
部長

退職という選択をされる方がいるのも事実ですが、一概に理由が固定されているものではないと思っています。

勤務に関わることもございますし、その方の背景、背負われている部分もあって今の仕事を断念される方もいるかもしれませんが、勤務のことが理由であれば、教育委員会でも業務負担軽減検討委員会等を開いて、時間的なものを改善しようと取り組んでいるため、4年度、5年度、6年度で少し数字的な改善が見られる部分もあり、意識しているところです。

石本亮三委員

部活の外部委託をすることで教員の負担軽減が進むのは分かるが、一方では部活動をしたいという先生もいるということ、以前に議場で御答弁されていた。トータルでどのようになるだろうというのは教育委員会会議等で整理、議論はしているのか。

中田学校教育
部長

委員会の会議でも教職員の負担軽減、働き甲斐というお話は委員の方からいただいたことがございます。部活の話も出していただきましたが、教育委員会では休日の部活動地域展開ということで実証事業も進めてい

ます。やりたい先生がいるということも答弁はしていますが、それでも休日の部活の地域展開については、どこまで、何ができるかということを考えていくというよりは、進めていかなければならないと思っています。ただ、所沢の学校規模において、どういうことが妥当なのか、適切なのかというところは慎重に判断しながら取り組んでいるところではございます。

石本亮三委員

先生方の異動は所沢市内にとどまらず、西部教育事務所管内で異動する。以前言われたのが、隣の市では教室にエアコンがついていたけど、所沢に来るとエアコンがついていなくて大変だとか、生々しい声が何人かの議員に届いていた。部活においても、例えば、所沢は進んでいるけどほかは進んでいないとか、逆もあるかもしれない。

そういった管内の差について整理はしているか。

中田学校教育
部長

所沢市だけではなく、全国的にこの取組をどうやっていこうかということをいろんな形で検討している段階で、国からは確かにこんな成功事例がありますというのを示されることがあります。こどもの人数というのもあるかもしれませんが、地域性、自治体の規模であったり、学校が一緒になって何かをやる、自治体または地域の方のサポートが必須だと思います。

他市と比べてどこが進んでいるというところまでははっきりと申し上げ

げられませんが、所沢に合った形について、いろんなところに出張に行かせていただいて情報収集をしています。

吉川学校教育
部次長

以前はダイア5市の担当者が集まって会議を行い、そこで今どういう状況ですというのは各市町村で情報共有していました。

今、比較的進んでいるであろう市、例えば、狭山市は新聞などで取り上げられていますが、スポーツ振興課の指導主事や担当者が出向いて会議に出たり、情報共有をしているところでございます。

矢作いづみ委
員

不登校だと先生が連絡を取ったり、家庭訪問したりといろいろやっていらっしゃると思うが、最終的には卒業式に出られてすごく先生に感謝しているというようなお話を伺ったことがある。1クラスにそういう子が何人いるかということでも負担感が変わってくると思うが、そういう先生方の学級運営の上での困難さみたいなものを把握するようなことを教育委員会としてはやっていないのかもしれないが、例えば、学校ごとのフォローアップとか、実態をつかむところからだと思うが、支援体制がどうなっているか分かれば教えていただきたい。

伊東学校教育
担当参事

学校教育課の中に、健やか輝き支援室という生徒指導、教育相談、特別支援教育を担当している部署がございます。そちらが主に学校のサポートをしているところでございまして、まず不登校につきましては、月

に1回、各校の状況について学校から報告をいただき、いただいた報告の中から、こちらでこれは心配だなとか、サポートが必要だなということに関しては直接学校とやり取りをして、助言をしているところでございます。

松本明信委員

家庭の状況は把握し切れないと思うが、家庭訪問がなくなってきている。昔は定期的、あるいは抜き打ちで行ったりしていたかと思うが、家庭の状況を把握するのは、やはり昔はコミュニティがしっかりしているから隣近所から通報があったが、今はそうではない。

そうすると、家族が病気なのか、病弱なのか、失業しているのか等について先生方はどのように入手する努力をされているのか。

中田学校教育
部長

家庭訪問以外に個人面談もありますし、あとは情報提供の資料を学校に提出いただいているものもありますが、全ての家庭の状況を事細かに知るということは難しい部分があるかと思えます。

保護者の方から困ったという御相談であったり、学校がお子さんの様子等で気になったこととお話したときに、保護者からお話しいただいて知るきっかけになっていることが多いかと思えます。

伊東学校教育
担当参事

家庭訪問を以前のように行っていないということは、やはり昨今のプライバシーの意識の高まりというところが影響していると思っていると

ころです。

一方で、部長からもありましたが、家庭訪問以外の方法で家庭の状況を把握することに学校は努めておりまして、例えば新入学児童、あるいは生徒の保護者説明会の場で、家庭に変化があった場合にはお子様を見守るという意味でも情報は必要なのでいただきたいというようなことを投げかけたり、年度初めの懇談会の場でも投げかけをしているところがございます。

松本明信委員

今はヤングケアラーが社会問題になっていて、私も努力して児童委員、民生委員、PTA役員から情報を得ているが、所沢においては実際どうなのか。

中田学校教育
部長

気づけば対象の御家庭や子ども、保護者に当たるところですが、担任だけでできるものではないですし、場合によっては学校だけでできるものではないこともございます。学校には相談員とかスクールカウンセラーがおりますし、教育相談ということであれば教育センターにもおりますので、先ほどお伝えしたとおり、全児童生徒の情報を事細かに収集することは限りなく難しいと思いますが、そういうつながりがあった方については、相手側から御相談という形で聞くことはできていると思っています。負担軽減という意味でも、学校だけで抱えることではないかと考えます。

矢作いづみ委員

例えば、福祉部で何かつかんだことがあった場合、そういう情報が共有されることはあるのか。

伊東学校教育担当参事

市役所内、あるいは関係機関との連携というのは密に行っております。例えば、こども家庭センターとはかなり密に連絡を取り合っているところでございます。

石本亮三委員

ヤングケアラーの問題が社会問題化していて、私も大変深刻だと思っている。県の教育委員会なのか国なのかは分からないが、ヤングケアラーの定義があるのか。例えば、家でおじいさんとかおばあさんの面倒を見ることは道徳的にはすごくいいことだけれども、それが行き過ぎたらヤングケアラーになる。そこの線引きが難しいとっていて、こういう問題が社会問題化し始めて、学校でそういうことを教えることに対して大変御苦労するということが起きているのか。

伊東学校教育担当参事

一般社団法人日本ケアラー連盟というものがございまして、そこで出している定義にはなりますが、ヤングケアラーという言葉に対して法令上の定義はありません。ただ、一般的に家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っているこどものことというように説明され

ています。

石本亮三委員

私は、敬う気持ちからそういう介助するというのはよいことだと教わってきたが、今はもう学校の現場では言えない雰囲気になっている。程度の差はあるが、一般的に言えなくなりつつあり、若い方を飲み会に誘えなくなっている雰囲気と似ていて、現場では言えない雰囲気になっているということか。

中田学校教育
部長

ヤングケアラーという言葉だけで子どもを線引きしているものではないと思います。基本的には子どもの困り感とか、あとは子どもが何も言い出せないような場合には、普段見ているのが教員なので、違和感、心配だなと思うことがきっかけで、いろいろ情報を集めていく中で先ほどの基準に当てはまりそうならばそのように捉えなければならぬかとは思いますが、ヤングケアラーというネーミングのことというよりは、本当に今子どもが困っていないかというところに関わると思っております。学校でも、踏み込めないということより、心配なことがあれば必要な方と情報共有、対応を考えていると思っています。

赤川洋二委員

以前、家庭訪問は校長判断で学校ごとに決めていると聞いたことがあり、まだ家庭訪問をやっている学校があると聞いたが、実際にそういう学校があるのか。

中田学校教育
部長

正確には把握していませんが、委員おっしゃるとおり、家の中に入っ
て面談ということではなく、多くの学校で個人面談や別の形に変わってき
ていると思っています。

赤川洋二委員

教育委員会としては家庭訪問をやれとも言えないし、一切言わないの
だと思うが、こどもたちの家庭環境を把握するためにアンケートなどを
取っているか。

中田学校教育
部長

家庭訪問、個人面談、二者面談、三者面談にしろ、何のためにそれが
必要かというところを学校が考えて決めているのか、というお話もあり
ましたけれども、学校全体で決めているものかと思います。

現在は、家庭の中に入ってまでは必要ないのではないかという考えが
強くなってきているかと思います。

赤川洋二委員

一般質問をやられる議員も多くて、そのときに実態調査をやったらど
うかというのがよく出る。そのときに、市としては今は考えておりませ
んという答弁がある。教育委員会としては把握した場合の対応とか、家
庭訪問をやっていないのと同じように、市として実態調査をやらないと
いう理由があるのか。

中田学校教育
部長

ヤングケアラーに関しては、こども未来部に議場で御質問されていると思いますが、そこと連携はしているところです。

ただ、アンケートや調査というと、先ほど石本委員からもありましたが、なかなか線引きが難しい中で、他の自治体でやられているところの情報も担当課でも仕入れているところだと思っておりますが、どういうものが必要かというのにも吟味しないと、こどもにいきなり聞いても、欲しい情報、必要なものが得られないこともあると思っております。

やらないと言っているわけではなく、やるにしても、やはり条件が整わないと難しい調査ではないかなと思います。対象はこどもだとしても、保護者もいるわけで、どうやって調査をするのが一番妥当なのかというのはよく検討していかなければいけないと思っています。

赤川洋二委員

市としては検討した中で必要性は認めているということか。条件的なものであって、やる方向で検討しているということか。

中田学校教育
部長

先ほど申し上げましたとおり、ヤングケアラーは、学校ももちろんこどもに関わっているため関係課ではありますが、こども未来部と一緒にやっていくことだと思っておりますので、今ここでやるとかやらないということではお答えできないのですが、何ができるか、どうするかというところの協議は行っているということは言えると思っております。

神戸鉄郎委員	外部指導員と部活動指導員、これらの採用方法の違いがあるか。
吉川学校教育 部次長	<p>外部指導員は、1回の指導につき1,000円の報酬で御協力いただいているもので、単独での指導はできませんので、必ず顧問の先生がついた上で一緒に指導していくという形になります。</p> <p>部活動指導員は、こちらは県でお金を出しているものであって、この方は単独での指導、引率が可能です。もちろん顧問という名前もありますけれども、その方がその場にいらなくても指導ができるという形になっているのが大きな違いでございます。</p>
神戸鉄郎委員	外部指導員は18歳以上でできると以前調べたことがあるが、実際大学生とかを採用されているのかを確認したい。
吉川学校教育 部次長	大学生も採用されております。成人が18歳に変わったあたりで基準を変えましたが、学生も外部指導員にはいます。
神戸鉄郎委員	外部指導員が71人いる中で、分布が偏在しているとか、満遍なく広がっている等、どのようになっているか。
吉川学校教育 部次長	把握している限りですが、各学校に1人以上はいますけれども、学校の大きさによって部活動の数が違いますので、所沢中学校などはかなり

外部指導員が入っていたりと、数の差はございます。

石本亮三委員

令和9年度に部活動が地域展開していく上で、今次長から御説明があったとおり、1日1,000円でやったださっている外部指導員71名は本当に好きで、ボランティア精神豊富で御協力いただいているわけだが、当然71名で部活の地域展開はできない。これ以上増やしていくという話になると、謝礼ではないが、今の水準よりは引き上げていかなければ駄目だと思うが、こういった話はもう検討をしているのか。

令和9年度のスタートだと当然夏ぐらいからは予算要望していくわけで、そうするともう今の段階で教育委員会では具体的に幾ら、どれぐらいの水準にしなければならないとか、そういう検討に教育委員会では入っているのか。

吉川学校教育
部次長

金銭的な部分の検討にはまだ入れていませんが、この方々をどのように地域展開の中に入れていこうとか、そのほかの指導者もどのように入れていこうかというのを検討している最中ですので、石本委員がおっしゃるとおりで、その辺のところもきちんと決めていかなければならない時期になっているのは承知していますので、それは進めたいと思っております。

矢作いづみ委

部活動の外部指導員が71名ということだが、どのように決まるのか。

員

これまでもずっと関わってきたという方もいらっしゃるだろうし、O
Bとかもあるかと思うが、ある学校でこの部活を指導する人がいなくて
探そうということで探すという場合もあるのか。そのあたりのことを御
説明いただきたい。

吉川学校教育
部次長

専門的な指導者がいない、顧問だけではできないという場合には、学
校が探したり、あるいは、ぜひやらせてくださいと地域の方から申込み
があった場合には学校から申請して採用する形をとったりと、双方向で
す。

谷口雅典委員
長

この際、委員として質疑したいので所沢市議会会議規則第116条第
1項の規定により副委員長と交代します。

神戸鉄郎副委
員長

それでは、委員長の職務を行います。

谷口雅典委員

部活動指導員が4人ということで、この4人は先生とほぼ同じような
形で、先生がいなくても単独でできるということだが、この4人の方は
休日がほとんどなのか、それとも平日も含めてやっているのか。

吉川学校教育

勤務条件の中には、おおむね平日2時間、それから休業日が3時間と

部次長	いうふうに定めていますので、その範囲の中で活動をしていただいていると把握しております。
谷口雅典委員	平日がメイン、休日がメインという実情を答えられないということか。
吉川学校教育 部次長	その方の仕事の状況であるとか様々ですので、朝練に来ている方もいらっしゃると思いますし、休日のみという方もいらっしゃるようです。
神戸鉄郎副委 員長	それでは、委員長と交代します。
赤川洋二委員	先生たちの負担軽減を考えると、顧問の先生がつかないでできるということで、こういう方が多くなったほうがいいと思うが、どういう方がなれて、どういう基準で決めるのか。
吉川学校教育 部次長	教職員としてかつて部活動で教えた経験があるとか、外部指導員の経験があるとか、あとは校長のほうで面談した中で、一定の知識とか技能があつてこの方なら大丈夫と認めた方を基本的には認めております。
赤川洋二委員	市の教育委員会として認めているということだと思うが、先ほど県と

の関係があったが県の基準、報酬等を伺いたい。

吉川学校教育
部次長

県から補助金が出ているということで、県というお話をしました。報酬は月当たり28,000円プラス地域手当相当分ということで報酬は出ております。

松本明信委員

教員経験があつて部活も指導できる、あるいは先生の補助ができる先生という意味で所沢市在住のOBやOGの先生を把握しているのか。

中田学校教育
部長

詳細に今どこで何をやられているかという把握の仕方ではありませんが、例えば、お名前が分かればいつ頃市内に勤めていた方で、こういう部活を教えていたということは、情報としては分かるかとは思いますが、ただ、まっさらな方が申し込んでくることもありますので、そういうときは、先ほどのとおり学校長が大丈夫だろうという方を認めて、こちらへ情報をいただいています。

松本明信委員

今、ある中学校で校長先生が国語を教えているところがある。補充ができず苦勞しているところがあるが、この時期は先生方が補充できないといったことがあるのか。

吉川学校教育

特に中学校ですと教科の兼ね合いもありますし、この時期ですと、あ

部次長

と数か月、数日というところでどうしても人が充てられないという状況がございました。

松本明信委員

さっきの少人数学級が増えてきたということが、刺激が少ないことをカバーする異学年教室で、開智学園は成功している。公立では話題になっているのか、取り上げる方向になっているのか、その辺の情報をお聞きしたい。

中田学校教育
部長

所沢に限らずおそらく県内の学校でも全国の学校でも異学年との交流ということは盛んに行われています。人数が少なくてというパターンもありますが、人数がある程度いたとしても、異学年が交わって教育活動を行うことは実際に行われていると思っています。意義のあることだと考えております。

石本亮三委員

4月から中学校も35人学級にするということで、今日卒業式に行った富岡中学校が2クラス、2クラス、3クラスで3クラスになるんだという話を聞いてきました。なかなか御答弁しづらいただろうけれども、先生がいるから配置していく関係で35人学級生なのか。元々35人学級にしていけばきめ細やかな体制が取れるから導入したという話をしていた。そのメリットはもちろんあるが、解決していない部分もある。その辺は文科省や県教育委員会はどういうお題目で35人学級にしろと言

ったのか。例えば、一クラスの生徒が減るわけで、そのデメリットも相当あると私は思っていて、クラスが増えることのメリットもあれば、デメリットも相当あると思っている。小規模校ほどそのデメリットが大きくなると私は思っていて、そういう話も地元で聞いている。その辺はどうお考えになったのか。

中田学校教育
部長

例えば、40人学級だと40人、39人だったら1クラスなわけです。それが35人学級となると、それが2クラスです。国がそれを進めている理由があるとすれば、当然1人の教員がより多くのこどもに関われるということを想定している。それが負担軽減と言われるならばそうかもしれないですが、こどもたちにより濃く関われるようにしているということはあるかと思います。私どもとしてはそれが決まりとなれば、その35人学級の形でクラスが決まるので、国のほうも県のほうも採用数であるとか、そういうものは考えていただけているとは思いますが、人を整えることには教育委員会としてもここ数年、毎年一生懸命に人を確保することに努めているところでございます。

石本亮三委員

産休などを取られて校長先生が実際に授業を担当している事例を私も聞いている。そうするとクラス数が多ければその分、担任の先生を貼りつけなければならない。一方で、教員の成り手不足とか、そういう人手不足で、校長先生が授業をやらなければならないほど、確保が難しいと

なっている。午前中、保護者の方からどうなっているのですかと聞かれたばかりなので聞いているが、確保できているけれども一方でこういうことが起きているわけで、我々が保護者に聞かれたらどう説明すればいいのか。

中田学校教育
部長

こどもの数によって教職員の定数が決まっているので、その確保には努めています。ただ、今委員がおっしゃった、年度の途中で産休や育休でお休みの方もいますし、違う形でお休みされる方も、年度途中でいなくなったときの人を探すのは、途中で人をまた雇わなければいけないので、その難しさは例年あると思っています。ただ、教員の成り手不足という言葉もあるので、私どもだけでどうこうすることはできないですけれども、言えることは、とにかく学校が困らないように一生懸命探す。そしてなるべく人をしっかり充てられるように努力しますということ、今私どもが言えることはそこまでかなと思っています。制度と人材確保のバランスが取れることを教育委員会としても望むところです。

石本亮三委員

実際に校長先生が教壇に立っているわけで、中には教頭先生が教壇に立っている事例もあると聞いている。校長先生は校長先生の、教頭先生は教頭先生の本来の業務があるわけだが、授業をやっているということは、その仕事が当然できていない。校長、教頭はマネジメントのほうだが、校長先生、教頭先生も全知全能ではないわけで、その影響は本当に

出てきていないのか。

中田学校教育
部長

そこは子どもたちの不利益にならないようにと考えると、校長室に座っているだけではないので、教頭先生も授業に出られるのであれば、ただ、そのやらねばならない業務も実際に行われなければいけないので、カバーし合うという言い方になるかもしれませんし、場合によってはその分管理職の在校時間が必然的に少し長くなるということはあるかもしれませんが。教育委員会としてはそういうことができるだけないようにしたいですし、あらゆる軽減策、負担を取り除けるような策を今も講じているところでございます。

赤川洋二委員

委員会で部活動も含めての教員の負担軽減ということと、もう一つ保護者対応ということで、先日、我々は天理市へ視察を行い、保護者対応に教育長が中心になって教育委員会が積極的に出て行ってやっているのを見てきたが、若い先生が辞める原因として保護者対応があると聞いたので、先生たちをサポートするという意味も含めて、保護者対応について学校に任せるだけではなくて、教育委員会として、健やか輝き支援室もあるが、今後どういう形で取り組んでいこうとしているのか。

中田学校教育
部長

実は現在も学校で対応に苦慮しているものがあつた場合には、教育委員会にもその話が来ますので、場合によっては教育委員会も学校に出向

いて、同席して保護者対応を行っているような事例もございます。未然に防げるということであれば、学校を巡回する元校長の学校経営アドバイザーなどという方たちもいますので、対応に苦慮しているケースについては相談に乗って、学校で対応できればそれでいいですし、場合によっては教育委員会も、実は本市も積極的に学校に関わっていることはございます。

赤川洋二委員

年間どのぐらい教育委員会が出かけているのか。どういう方が実際に行っているのか。

中田学校教育
部長

年間の件数は電話対応もあれば、学校ということもありますので把握はしておりませんが、出向くからには何とか着地点を見いだしたいということで収めている、収まっている事例もたくさんございますので、今後も学校のサポートには当たりたいと思っています。

【質疑終結】

休 憩（午後3時35分）

（休憩中に協議会を開催）

再 開（午後3時46分）

○所管事務調査事項の継続審査申出の件について

谷口雅典委員
長

継続審査申出の件については、別紙3のとおりに申出を行うことと決定した。

谷口雅典委員
長

所管事務調査事項「教育施設について」、令和8年4月17日に委員会を開催し、旧所沢幼稚園の現地視察を行いたいと思いますがよろしいですか。

(委員了承)

散 会 (午後3時48分)

市民文教常任委員会

令和8年3月13日(金)

開 会 午前 ・ 午後 2時30分
散 会 午前 ・ 午後 3時48分
場 所 第4委員会室

委員長	谷口雅典	✓
副委員長	神戸鉄郎	✓
委員	石本亮三	✓
〃	赤川洋二	✓
〃	矢作いづみ	✓
〃	松本明信	✓
〃	佐野允彦	✓
〃	福原浩昭	✓

議長	粕谷不二夫	
----	-------	--

